

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース 保存再生学シンポジウム2016

【第2回】

鉄筋コンクリート 建造物の 保存と活用

モダニズム建築の保存活用の 成果と課題

「鉄筋コンクリート建造物」を年間テーマとする
2016年度の第2回となるシンポジウムである。

鉄筋コンクリート造による建築物の発明から100年以上が経過し、我が国においても、鉄筋コンクリート建造物はもはや歴史的存在となりつつある。

しかしながら、その保存再生のための改修に関する
理念や方法については、まだ十分に議論されていない。

中性化や漏水による劣化、耐震性能への適応など技術的な問題も多いが、
ヨーロッパで建築保存の理念の中心をなしてきた概念
「オーセンティシティ(本物性)」を維持するのが難しいという問題も抱える。

そうしたなか、オランダでは建築史上燦然と輝くモダニズム建築の傑作
「ファン・ネレ」[Van Nelle「工場」] [1928年竣工、Brinkman & Van der Vlugt「設計」]が、
オーセンティシティを維持しながら、

近年オフィスビルにコンバージョンされ活用されている。
2014年には世界文化遺産に登録されるという成果も得た。
また日本では、優れた事例はごくわずかに過ぎないが、

近年では「国際文化会館」[1952年竣工、前川國男・坂倉準三・吉村順三設計]が、
耐震性能をクリアしながら美しく改修され活用されている。
解体の危機にあったものの、

今回のシンポジウムでは、
これらのモダニズム建築の保存活用における
改修設計を担当した二人の建築家を招き、

それぞれの取り組みの成果を紹介していただきながら、
モダニズム建築や鉄筋コンクリート建築物を
「使い続ける」ための課題を考えたい。

オランダと日本という異なる2つの国を
比較しながら議論することで、
その課題がより明らかになることを期待したい。

- 日時＝2016年11月26日「土」13時30分
会場＝京都工芸繊維大学60周年記念館2階大セミナー室
定員＝90名
入場＝無料「申込不要、当日先着順」
主催＝京都工芸繊維大学大学院建築学専攻、京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab
後援＝DOCOMOMO Japan / 日本イコモス国内委員会
講演＝ヴェッセル・デ・ヨング「Wessel de Jonge / 建築家 / デルフト工科大学教授」
鯉坂徹「建築家 / 鹿児島大学教授」
13:30 - 挨拶―田原幸夫「京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab 特任教授」
13:40 - オランダと日本におけるモダニズム建築の保存活用―笠原一人「京都工芸繊維大学助教」
14:00 - 近代建築遺産何を継承し何を変えるか―概念材料・実践―ヴェッセル・デ・ヨング *逐次通訳あり
15:30 - 日本のモダニズム建築 保存再生の課題―国際文化会館の改修をとおして―鯉坂徹
16:20 - 休憩
16:30 - 座談会「モダニズム建築の保存活用の課題を探る」
ヴェッセル・デ・ヨング + 鯉坂徹 + 田原幸夫 + 笠原一人「司会・進行」*逐次通訳あり
18:00 - 講師・参加者による懇親会「プラザKIT「会費制」



国際文化会館



ファン・ネレ工場

